

大崎市雨水管理総合計画（中間案）に係るパブリックコメントの実施結果について

○概要

パブリックコメント実施期間：令和5年12月8日（金）から令和5年12月28日（木）まで

意見の提出状況：意見提出者2名，意見件数5件

意見番号	関連箇所	意見の概要	意見等に対する本市の考え方
1	計画全般	下水道や、既存水路、道路排水施設等を合算した排水量で、ないと、本当の排水量は、わからないのでは、ないでしょうか？	<p>ご指摘のとおり既存水路や道路側溝等を通る雨水も見込んだ排水量として計画する必要があります。</p> <p>計画排水量につきましては、計画の雨が降った場合に、下水道全体計画区域及びその周辺区域から流入が見込まれる雨水を既設の用水路や道路側溝等を使って集め、最終的に河川へ排水するために必要な施設を見込んだものとなっております。ご指摘の排水量を計画として考慮しております。</p> <p>また、既設の排水路等が計画の排水量を流すための必要な断面を確保しているかもあわせて確認しており、断面が不足する場合には必要な断面に改修する計画となっております。</p> <p>なお、生活雑排水や大雨時に取水を取り止める用水は排水量として見込んでおりません。</p>

2	<p>(P77) 7.2.1 計画降雨に対するハード対策 (P79) 7.3 段階的対策方針の整備目標</p>	<p>管きょ整備等は、最優先地区まで、広げて出来るのでは、ないか。</p>	<p>段階的対策方針の整備目標につきましては、想定投資額（平均年間投資額を6億円）を踏まえて、計画期間である30年間における整備延長や浸水解消効果について当面・中期・長期の段階ごとに示したものとなっております。</p> <p>最優先対策地区につきましては、計画期間の30年間において、整備延長は53%であり整備完了に至らない見込みとなっておりますことをご理解ください。</p>
3	<p>(P78) 7.2.2 照査降雨に対するハード対策及びソフト対策</p>	<p>田んぼダム等による、貯水効果等の明記。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、P78に参考として、流域治水の考え方や、その取組みの一つである田んぼダムの効果を以下のとおり追記しました。</p> <p>「市では、鳴瀬川水系流域治水プロジェクトや北上川水系流域治水プロジェクトなど、国、県、流域自治体、関係団体等の連携による流域治水の取組みを推進しており、その取組みとして、水田の持つ雨水貯留機能を活用した「田んぼダム」など、上記事業を推進し洪水被害の軽減に取り組むものとする。」</p>

4	(P79) 7.3 段階的対策方針の整備目標	実施中地区と最優先地区の浸水解消効果の数値が、違い過ぎるのは、なぜだろうか？地形等にも関係するかもしれないが、高い数値に近づけてもらいたい。	段階的対策方針の整備目標につきましては、想定投資額（平均年間投資額を6億円）を踏まえて、計画期間である30年間における整備延長や浸水解消効果について当面・中期・長期の段階ごとに示したものとなっております。最優先対策地区につきましては、計画期間の30年間において、整備延長は53%であり整備完了に至らない見込みとなっておりますことをご理解ください。
5	その他	大崎市の取り組みを国土交通省（北上川下流河川事務所）に対しても説明して頂き、国土交通省の右京江床固の改築等による水位低下の対策を積極的に対応するように強く依頼することを要望します。	右京江床固などの河川構造物につきましては、本計画の検討対象としていないことから、ご意見として伺います。 なお、放流先河川の管理者である国土交通省（北上川下流河川事務所）に対しましては、本計画について説明を行うこととしております。また、今後、本計画の進捗状況などについても適宜、情報共有を図るよう努めることとしております。